

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/小児看護学】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
小児看護援助論 I	NSP22_008	必修	2	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
東福寺 愛実 他	401	Narumi.tofukuji	金曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	この科目では、一般の乳幼児の日常生活援助はもとより、健康障害の子どもとはどのような状態にあるかを理解する。さらに疾病を与える子どもの身体的、精神的、社会的及び成長発達への影響、家族への影響について考える。また、子どもとその家族に向けた適切な看護援助の在り方を考えるとともに、基礎的な小児看護実践能力を修得することを目的とする。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(実習) <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他()				
学習上の助言	この授業では、小児看護学概論で学んだ子どもの成長発達上の特徴と小児看護の基本となる理念、疾病治療論VIの知識が必要となるため、事前に学修をしておいて欲しい。その日の授業で学んだ内容は今回の授業までに必ず復習することを習慣づけて欲しい。				
教科書	・系統看護学講座 小児看護学 I 小児看護学概論 小児臨床看護総論 /著:奈良間美保 他 /医学書院 /2025 ・系統看護学講座 小児看護学2 小児臨床看護各論 /著:奈良間美保 他 /医学書院 /2025 (2冊指定) ・根拠と事故防止からみた小児看護技術 (第4版) /著:浅野みどり /医学書院 /2025 ・写真でわかる 小児看護技術 (第3版) /著:山元 恵子 /インターメディカ /2022 ・病気がみえるVol.15/メディックメディア/2022				
参考書	・公益社団法人 日本看護協会 動画ポータル				
外部教材	学生が達成すべき行動目標				
①	子どもの病気・障害に対する理解や反応と家族の反応について説明できる。			NS (1)(3)	
②	さまざまな症状を示す子どもの看護について説明できる。			NS (1)(2)(3)	
③	入院・外来・在宅における子どもと家族の看護について説明できる。			NS (1)(2)(3)(4)(5)	
④	子どものアセスメントに必要な技術について説明ができる。			NS (2)(3)(4)(5)	
⑤	慢性期・急性期・周手術期・終末期にある子どもと家族の看護について説明できる。			NS (1)(2)(3)(4)(5)	
⑥	障害のある子どもと家族への看護について説明できる。			NS (1)(2)(3)(4)(5)	
⑦	検査・処置を受ける子どもと家族の看護について説明できる。			NS (1)(2)(3)(4)(5)	
⑧	子どもの虐待と看護について説明できる。			NS (1)(2)(3)(4)(5)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1・2	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・病気に対する子どもの理解の特徴 ・病気や診療・入院が子どもに与える影響と看護 ・子どもへの説明と同意 プレバレーション ・子どもの病気や診療・入院がきょうだい・家族に及ぼす影響と看護 	講義 GW	小児看護概論で学んだ子どもの発達の過程(認知機能)について事前学修する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		
3・4	<ul style="list-style-type: none"> ・症状を示す子どもの看護 不機嫌・啼泣・呼吸困難・チアノーゼ・痙攣・発熱嘔吐・下痢・脱水・出血 	講義	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		
5・6	<ul style="list-style-type: none"> ・症状を示す子どもの看護 発疹・黄疸 痛み(子どもの痛みの受け止め方、表現方法、客観的評価 ディストラクションの実際) 	講義 GW	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		
7・8	<ul style="list-style-type: none"> ・活動制限が必要な子どもと家族への看護(発育性股関節形成不全) ・感染症をもつ子どもと家族の看護(麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・急性胃腸炎) ・感染対策上隔離が必要な子どもと家族への看護 	講義	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		
9・10	<ul style="list-style-type: none"> ・小児外来の特徴と役割 ・外来における子どもと家族への看護(気管支喘息、クループ症候群) 	講義	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		
11・12	<ul style="list-style-type: none"> ・小児特有の診察(検査、処置)に伴う技術と看護 コミュニケーション・バイタルサイン測定 身体計測・採血・採尿・輸液管理・与薬 	講義 GW	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		
13・14	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待を受けている子どもと家族への看護 ・災害を受けた子どもと家族への看護 	講義 GW	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		
15・16	<ul style="list-style-type: none"> ・急性症状のある子どもと家族への看護(急性気管支炎・肺炎 肥厚性幽門狭窄症、川崎病、腸重積症) 	講義 GW	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		
17・18	<ul style="list-style-type: none"> ・周手術期における子どもと家族への看護(先天性心疾患〔ファロー四徴症、心房中隔欠損〕、口唇口蓋裂 外鼠径ヘルニア 胆道閉鎖症) 	講義 GW	左記内容について教科書やレジュメで確認しながら復習しておく。		
19・20	<ul style="list-style-type: none"> ・出生直後から集中治療が必要な子どもと家族への看護(低出生体重児、ヒルシュブルング病、鎖肛) ・先天性疾患をもつ子どもと家族への看護(ダウン症候群) 	講義 GW	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。		

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/小児看護学】

21・22	<ul style="list-style-type: none"> ・心身障害のある子どもと家族への看護(脳性まひ) ・子どもの死の理解と看護(急性リンパ性白血病) ・子どもと家族への緩和ケア 	講義 GW	左記内容について教科書で予習する。授業内容を整理し復習しておく。			2	
23・24	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ 演習前の課題学習 	講義	レジュメや教科書で学修し、演習時に実施する内容について課題をレポートする。			2	
25・26	<ul style="list-style-type: none"> ・小児のバイタルサイン測定 ・身体計測(身長・体重・頭囲・胸囲) 採尿 	演習	事前課題を確認しておく。演習で学んだ内容を整理しまとめる。			2	
27・28	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護(二分脊椎、腹膜透析) ・慢性的経過をとる疾患をもつ子どもと家族への看護(ネフローゼ症候群、溶連菌感染症後急性糸球体腎炎、I型糖尿病) 	講義 GW	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。			2	
29・30	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命処置が必要な子どもと家族への看護(頭部外傷、熱中症、ショック、意識障害、転倒・転落) ・事故防止と安全教育 ・小児の救急時の対処法の実際 	講義 演習	左記内容について教科書で予習する。授業で学んだ内容を整理しまとめる。			2	
試	定期試験：達成度評価、評価のポイント参照						
達成度評価							
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		80	10	0	0	10	100
総合力指標	知識・技術力	60	5	0	0	0	65
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	5	0	0	0	5
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	筆記試験 80%・レポート及び課題 10%・その他(取り組みの姿勢・意欲、出席状況) 10%で評価する。筆記試験はレジュメの内容から出題する。知識 60%、思考・推論・創造する力 20%とし、定期試験期間に試験を実施する。				テスト終了後に、定期試験で正答率の低い問題や今後の学習ポイントについて書面で解説を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
	⑦	✓					
	⑧	✓					
演習課題レポート	①		小児看護援助技術の演習前に、課題をもとに学修する。演習時は小児看護に必要な技術やコミュニケーション方法について説明・記述ができるように準備しておく。授業内容に関するレポートを自身の考えを踏まえてまとめる。課題・レポートの提出遅れや未提出は減点となる。				課題およびレポートは評価終了後に返却する。
	②						
	③						
	④	✓					
	⑤						
	⑥	✓					
	⑦						
	⑧						
その他	①	✓	授業中の私語禁止・携帯電話・電子機器等の使用は担当教員の許可がある場合のみとする。各授業の始めに前回授業の内容について確認テストを行うため必ず復習しておく。				授業や演習中の取り組み姿勢について注意が必要な場合は、学生自身が気づけるように声掛けをおこなう。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
	⑦	✓					
	⑧	✓					
備 考							
他担当教員	山本 富士子						
教員の実務経験	担当する看護教員は、看護師として実務経験が15年以上有したものが担当する。						
実践的授業の内容	小児の看護援助に必要な基本的知識および小児特有な看護技術について演習を通して理解する。学生個々が実践することで、気づきや学びが深まることが期待される。実際的小児看護の現場に必要な看護実践の知識・技術の修得を目指し、小児看護援助論IIおよび小児看護学実習につなげる。						
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況により、学習内容や授業方法・順番が変更になる場合は講義内または事前に説明をする。 ・確認テストは評価点に加算されない。 						